

病氣と向き合う子どもや
児童施設の子どもが笑顔になる贈り物事業

8病院8施設24企画

成田赤十字病院のみなさんへ
肩掛け人形芝居「ねずみのすもう」
2017年7月18日(火) グリーンルーム 午後2時30分

千葉子ども病院のみなさんへ
ののほな劇場
2017年7月26日(水) プレイルーム
5階病棟 ごこ1時30分~2時15分

千葉大学医学部附属病院のみなさんへ
ののほな劇場
2017年7月27日(木) 10時~グリーンルーム 11時~エレベーターホール

千葉県千葉リハビリテーションセンターのみなさんへ
アフリカの熱い風サマーコンサート
2017年8月7日(月) 10:45~11:30

千葉市立海浜病院のみなさんへ
肩掛け人形芝居「ねずみのすもう」
2017年8月9日(水) 10:30~ 小児病棟 3F プレイルーム

独立行政法人国立病院機構 千葉東病院のみなさんへ
チカパンのバントマイ!
2017年8月24日(木) 15:15~16:00 プレイルーム

独立行政法人国立病院機構 下志津病院のみなさんへ
歌子さんのスマイルコンサート!
2017年8月30日(水) 14:00~ 療育訓練室

国立病院機構にプロのマジシャンが登場
アンディ先生のマジックショー
2017年9月20日(水) 14:30~15:20 会場 第3病棟ホール

も く じ

ご あ い さ つ	1
事業の目的・概要・実績・成果	2
成田赤十字病院	4
千葉県こども病院	6
千葉大附属病院	8
千葉県千葉リハビリセンター	10
千葉市立海浜病院	12
千葉東病院	14
下志津病院	16
国府台病院	18
千葉県中央児童相談所	20
千葉縣市川児童相談所	21
千葉県柏児童相談所	22
千葉県東上総児童相談所	23
千葉県銚子児童相談所	24
千葉県君津児童相談所	25
千葉市児童相談所	26
乳児院	27
コーディネーター打合せ会議	28

ご あ い さ つ

「病気と向き合う子どもが笑顔になる贈り物事業」は、「千葉県の子どもたちの生活文化環境づくり」をミッションに活動している子ども劇場千葉県センターが、千葉県小児科医会、実施病院、創造団体、応援してくださる助成団体とさまざまなかたちで連携し、可能性やニーズをさぐりながら、「子どもたちが笑顔になること」を最大の成果目標にして実施している事業です。今年で10年目になりました。今年度は、「子どもゆめ基金助成事業」での実施、「大和ハウスグループエンドレス基金」の支援助成、「赤い羽根共同募金配分」による「はじめてのおしばい事業」、そして、(特)子ども劇場全国センター ホットアート事業のご支援をいただきまして、プロのパフォーマーによるパントマイムの公演や地域の人材を講師とした遊びのワークショップを24企画実施することができました。また、募金箱を置いてくださった店舗の皆さんの応援も頂きまして、ご協力ご支援いただきました多くの皆さまに感謝申し上げます。

病院へは8病院に2回ずつ訪問し、プロによるパフォーマンス公演と地域に住んでいる指導者による工作や遊びのワークショッププログラムを実施できました。プロの技に引き付けられてワクワクする特別な体験の中で笑顔になる子どもたちや保護者の姿や、ワークショップのいくらかでも選べる材料やあそびに心躍らせ、達成感のある笑顔があふれ、ゆったりとした交流も楽しいひとときでした。

そして、画期的だったのは、千葉県内7つあるすべての児童相談所の子どもたちを訪問し、プロの芸術家による公演やワークショップを実施することができたことです。病院と同じように外に出られない環境で生活する子どもたちにとって、外からの風は新鮮で、心と体を解放して遊び笑顔いっぱいでした。ストレスを一気に発散でき、「自由に仲間とあそぶ体験」が困難な中にあっても必要だとの認識を強くしました。実施した病院・児童福祉施設ともに評価が高く、こうした場を提供し、継続し続ける社会的意義があると感じました。

事前の打ち合わせや当日の予定変更にも気を配るコーディネーターの役割は重要で、「ガイドライン」を共有し、関係者への安心と信頼を保障する質の高い事業となるよう取り組みました。子どもにとって遊びや舞台芸術に触れることは、成長発達に欠かせない糧であり、満足感、幸福感という自尊感情を育てる情緒的ウェルビーイングが向上することが明らかになっています。私たちは、病院や児童施設で生活する子どもたちの QOL 向上と情緒的ウェルビーイング向上を地域から支え、「子どもの笑顔は生きるちから！」をできるだけ多くの方々と共に共有し、今後もつづけていきたいと願っております。

特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター
理事長 宇野京子

事業の目的・概要・実績・成果

1. 事業の目的

長期入院している子どもたちや福祉施設で暮らす子どもたちは、日常生活の中に遊びや体験が不足している。子どもは仲間といっしょに楽しく「あそぶ」ことが必要であり、病院や施設向けにプログラム化したプロのパフォーマーによる舞台芸術や工作、音楽、遊び等のワークショップを届け子どもらしい楽しい遊びの時間を作り、ワクワクした笑顔を届ける。合わせて付き添っている家族や病院関係者のほっとするひとときを作る。

2. 事業の概要 8病院8施設で計24回実施

①プロによるパフォーマンス作品

【大和ハウスグループエンドレス基金2017年度助成事業】8病院

【平成29年度赤い羽根共同募金配分】3施設

②遊びのワークショップ

【独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金助成活動」】8病院5施設

【(特)子ども劇場全国センター ホットアート事業】1施設

③コーディネーターの信頼性と専門性の向上を図るコーディネーター打合せ会議を2回

3. 事業実績 949人の参加者 (子ども559人 大人390人)

大和ハウスグループエンドレス基金 パフォーマー公演						参加人数 447人 子ども250人 大人197人		
病院名	実施日	内容・演者	演者	スタッフ	総数	子ども	大人	
成田赤十字病院	7月18日(火) クリーンルーム	「ハロー!カンクロー」「ねずみのすもう」 (人形芝居燕屋) くすのき燕	1人	4人	18	8人	10人	
千葉県こども病院	7月26日(水) ①5F ②6F 西 病室訪問含む	「ののほな劇場」 (人形劇団ののほな) 納富俊郎・祥子	2人	3人	48	①13人 ②16人	①11 ②8	
千葉大学医学部附属 病院	7月27日(木) ①クリーンルーム ②エレベーターホール・病室含	「ののほな劇場」 (人形劇団ののほな) 納富俊郎・祥子	2人	4人	48	①7人 ②10人	①16 ②15	
リハビリテーション センター	8月7日(月) 大ホール	「アフリカの熱い風、サマーコンサート」 (ビギンズ)BB モフラン他	3人	3人	132	76人	56人	
千葉市立海浜病院	8月9日(水) プレイルーム 病室訪問含む	「ハロー!カンクロー」「ねずみのすもう」 (人形芝居燕屋)くすのき燕	1人	3人	29	13人	16人	
国立病院機構千葉東 病院	8月24日(木) プレイルーム 病室訪問含む	「チカパンのパントマイム!」 (パントマイムプラネット) チカパン	1人	3人	17	11人	6人	
国立病院機構下志津 病院	8月30日(水) 療育訓練室	「歌子さんのスマイルコンサート」 (リーフ企画) 歌子さん他	3人	4人	109	63人	46人	
国立国際医療研究セ ンター国府台病院	9月20日(水) 東3病棟ホール	「アンディ先生のマジックショー」 (マジックファクトリー) アンディ先生	2人	4人	46	33人	13人	
子どもゆめ基金 ワークショップ						参加人数 371人 子ども222人 大人149人		
病院・施設名	実施日	内容・指導者	指導者	スタッフ	総数	子ども	大人	
国立病院機構下志津 病院	7月26日(水) プ レイルーム	「工作いろいろいっしょに作ろう!」 (特)四街道こどもネットワーク	4人	4人	13	10人	3人	
リハビリテーション センター	8月7日(月) 1FC 2FC 病室訪問	「アフリカの熱い風!太鼓であそぼう」 (ビギンズ)BB モフラン他	3人	4人	67	36人	31人	
千葉県こども病院	8月10日(月) 7F	「夏休み!わくわく工作!」(特)千葉中央お やこ場 千葉北おやこみる・あそぶ会	4人	2人	17	12人	5人	
国立病院機構千葉東 病院	8月22日(火) ①31病棟 ②32病棟 デイルーム	「ToyBox コンサート~Let's enjoy music! 音楽と遊ぼう~」 Toy Box	4人	4人	89	①43人 ②19人	①12人 ②15人	
千葉大学医学部附属 病院	8月24日(木) ①クリーンルーム ②プレイルーム	「ワクワク工作つくってあそぼう」 (特)四街道こどもネットワーク	4人	4人	35	①9人 ②6人	①11人 ②9人	
千葉市立海浜病院	9月26日(火) プレイルームと病室 訪問	「おはなしつくり」 (つかだおはなし会)大崎あけみ (特)子ども劇場千葉県センター)	4人	4人	32	12人	20人	
成田赤十字病院	10月4日(水) クリーンルーム	「秋のおはなし会」「動くおりがみ工作」 (特)子どもプラザ成田	4人	4人	19	7人	12人	

国立国際医療研究センター国府台病院	12月7日(木) 院内学級小学校	「世界で一つのキラキラ万華鏡を作ろう!」 (特)市川子ども文化ステーション	4人	4人	13	8人	5人
千葉県市川児童相談所	7月3日(月) 2F 講堂	「見たことのない生き物をつくろう」工作 ワークショップ (人形劇団ひばりあむ)永野むつみ 大直	4人	4人	25	19人	6人
千葉県東上総児童相談所	7月21日(金) 13:30~14:30 2F 多目的室	「表現ワークショップコミュニケーション あそび」(劇団風の子)大潤弘幸 大森靖枝	4人	4人	22	14人	8人
千葉県銚子児童相談所	7月25日(火) 2F 大会議室	「人形劇&ワークショップ」 (人形劇団ののはな) 納富俊郎・祥子	4人	4人	20	11人	9人
千葉県君津児童相談所	7月27日(木) 2F 会議室	「表現ワークショップコミュニケーション あそび」(劇団風の子)大潤弘幸 大森靖枝	4人	4人	19	16人	3人
赤い羽根募金 「はじめてのおしばい」パフォーマー公演					参加人数 94人 子ども 70人 大人 34人		
施設名	実施日	内容・指導者	演者	スタッフ	総数	子ども	大人
千葉県中央児童相談所	6月21日(水) 1F 集中治療室	肩掛け人形芝居「さんまのおふだ」腹話術 「ハロー!カンクロー」 (人形芝居燕屋) くすのき燕	1人	3人	31	27人	4人
千葉市児童相談所	7月14日(金) 2F スポーツひろば	「アフリカンリズム&パーカッション」 (ビタシカオフィス) BB モフラン他	3人	3人	47	25人	22人
千葉県乳児院	7月28日(金) プレイルーム	「ともだちげきじょう」の一部上演 (人形劇団ののはな)納富俊郎・祥子	2人	4人	16	8人	8人
連合・愛のキャンパ 子ども劇場全国センターほっとアートプレゼント ワークショップ					参加人数 37人 子ども 27人 大人 10人		
千葉県柏児童相談所	7月10日(月) 食堂	「アフリカンリズム&パーカッション」 (ビタシカオフィス)BB モフラン他	演者 3人	3人	37	27人	10人

4. 実施体制

- ・コーディネーターメンバー 20人

多田優子・戸田綾(特)子どもプラザ成田/塩沢千秋・市川淑江(特)四街道子どもネットワーク/渡慶次康子・買場都明・加藤香都代(特)市川子ども文化ステーション/大塚るい(特)千葉中央おやおこ劇場/岡田泰子・中村雪江・大森智恵子・笠原直子・桑原信子・椎名好子・滝口淳子・鈴木佳子・綿貫のぼら・棚田純子・中村幸恵・宇野京子(特)子ども劇場千葉県センター

5. 成果

- ・入院中の子どもたちや福祉施設で生活する子どもたちに子どもらしい遊びの楽しい時間を8病院8施設で計24回実施し、入院中や福祉施設にいる子どもたち、家族、病院や施設の関係者949人が、満足した笑顔いっぱいほっとするひとときを持つことができた。

(10年間の実施実績：12病院8施設 延べ123回 5,716人参加)

- ・病院や児童福祉施設のニーズに添った工夫した内容と丁寧な準備をして臨んだ。入院中ではあっても満面の笑顔の瞬間とリラックスして手や足を動かし、嬉しさや楽しさを体いっぱいに表現しかけがえのない時間となった。永く付き添ってきた保護者も子どもの笑顔を見て嬉しくなり、ほっとして、ストレスも軽減された。病院関係者も普段見られないような子どもの笑顔に会話も弾んでいた。
- ・はじめて、千葉県内にある7つすべての児童相談所にて実施できた。また、児相の子どもたちは笑顔ではしゃいで遊び、自由に思い思いの作品をつくり、満足感や達成感が感じられた。ためこんでいるストレスを一気に発散でき、「自由に仲間とあそぶ体験」が困難な中であっても必要だと認識を強くした。実施した病院・児童福祉施設ともに評価が高く、こうした場を継続して提供し続ける社会的意義があると感じた。
- ・この事業は、コーディネーターの存在が不可欠である。交流や研修会、実績を積み重ねて、昨年よりも力を蓄えしっかりした「子ども観」を持ち、個別の状況に添って柔軟な対応や調整をすることができた。指導者と共に、プログラムの内容及び進行を創り、指導者も子どもたちにとって最善の内容にしようと努力と工夫を重ねて当日に臨んだ。こうした子どもの文化に関するコーディネーターや指導者の人的基盤がさらに強化された。

実施病院：成田赤十字病院

プログラム名： 『ハロー！カンクロー』、『ねずみのすもう』



実施場所： クリーンルーム廊下

実施日時： 2017年 7月 18日（火） 14:30 ～ 15:30

参加者数：総数 18人

内訳 子ども8人（幼児6人 小学生1人 中学生1人） 保護者8人

病院関係者2人（保育士1人 その他1人）

スタッフ数：演者 1人（人形芝居燕屋 くすのき燕） コーディネーター2人 団体構成員2人

プログラムの内容 ・腹話術『ハロー！カンクロー』約15分
・肩掛け人形劇『ねずみのすもう』約30分

当日の様子

病棟廊下に椅子を並べて座った子どもたちの前に、トランクを持った燕さん登場。中からカンクローが出てくるとその華やかな風態に視線は釘付け。腹話術『ハロー！カンクロー』が始まった。泣いていた子どもも軽妙なやり取りに笑い顔になった。カンクローの可愛い話し方と燕さんの掛け合いに子どもたちは声を出して笑い、身体を揺すり、言葉をかけたり、意見を言ったりと思いつき楽しんでいる様子。2人が「ドレミの歌」を歌った時は静かに聴き入っていた。終わりが近づきカンクローが「さみしい」と言ったら皆しんみりとした顔つきに。「また来てね!」「バイバイ」「おやすみ!」と優しく声をかけた。次は「ねずみのすもう」。和装に着替えた燕さんの箱を抱えたいで立ちにちょっとびっくり。すぐ楽しい人形劇の世界に誘われ、ねずみたちの織り成す会話に反応して笑い、夢中に。相撲の場面「見合って～見合って～」のところは大うけ。テンポよく進む舞台にワクワク。皆主人公の味方になり、敵役が隠れると何人もが大きな声で居るところを教えてくれた。遠くに投げ飛ばされ、だんだん小さな人形に変わりいかにも遠くに飛んでくように見えたときは最高の盛り上がり。子どもたちの笑い顔、笑い声の中にいる保護者の方たちもニコニコ。体調が今一つで元気のなかった子どももおかあさんに寄りかかりながら最後まで観ていた。終了後燕さんにサインをしてもらいとても嬉しそうな顔がたくさん見られた。

子どもの声

- ・おもしろかった ・また見たい ・また来てほしい ・つばめのおじさん、ありがとう。
- ・（カンクローが）牛乳をのむのが不思議だった

保護者からの声

- ・体調が悪くあまり笑う事がなかったが、観ている間ずっと笑っていた。久々に笑い声が聞けて、とても嬉しかった。機会があったら、また来てほしい。
- ・入院間もなくで院生活に慣れずにいたが、声を出して笑い楽しんでいる様子を見て、安心することが出来た。
- ・私自身もこのような劇は久しく見ていないので、こんなに癒しの力があることに驚いた。素晴らしい活動だと思う。感動した。

病院・施設関係者からの声

- ・燕さんの劇を見て子どもたちが笑顔になり、子どもたちの笑顔を見ることで保護者も笑顔になる、そんな優しい世界があった。
- ・治療の辛さ、身体の辛さや痛みを一瞬でも忘れられたのではないかと感じた。
- ・人見知りや病室から出られない子や体調が多少すぐれず活気のない子でも、人形劇に夢中になり、笑ったり元気になったりする様子が見られました。
- ・院内スタッフだけではとてもできない臨場感で、子どもたちを楽しませることが出来るので、とても素晴らしいと思います。今後とも継続して行っていただくと良いと思います。

（コーディネーター 滝口淳子）



実施場所：小児科病棟 クリーンルーム廊下

実施日時：2017年10月4日(水) 10:15 ~11:20

参加者数：総数 19人

内訳 子ども7人(幼児4人 小学生3人)

保護者7人 病院関係者5人(看護師2人 保育士1人 その他2人)

スタッフ数:指導者4人 ((特) 子どもプラザ成田所属)

コーディネーター2人 団体構成員2人

プログラムの内容

【秋のおはなし会】・エプロンシアター「ブレーメンの音楽隊」(電子ピアノで伴奏)・絵本「おつきさま」・紙芝居「ごきげんのわるいコックさん」・大型絵本「ドライブへいこう」

【動くおりがみ工作】・恐竜くん他カエルの歌の替え歌

当日の様子

始まる前から廊下に出て今か今かと待っていた子どもたち。エプロンシアター『ブレーメンの音楽隊』をじーっと真剣なまなざしを向け、動物の人形を嬉しそうに渡したり、ごちそうが出る場面では「ハンバーグ!」「おにぎり!」「うなぎが食べたーい!」口ぐちに大きな声で物語に参加したりした。絵本はしつとりと当日の十五夜にちなんだ本でちょっと一休み。一息ついで紙芝居は『ごきげんのわるいコックさん』次々変わるコックさんの顔を集中して見つめながらも、お友達や親の反応が気になるのかキョロキョロ見まわした。最後にキャンディーが出てくると大はしゃぎ。大型絵本は風景が細かくきれいに描かれ迫力もあり、めくるたび景色が変わるので、外出した気分になれた様子だった。「わーっ! 綺麗!」「何かいるうー」いろんな発見をして楽しそう。病室の入り口で参加した子は読み手が横で普通サイズの本を読み一緒に参加。覗き込んでニコニコ顔。後半は『動くおりがみ工作 恐竜くん』。最初から「おりがみまー」と楽しみにしていた男の子が早速好きな色を選んで夢中で恐竜を作成。2才の女の子は怖がってやらなかったが指導者が動く目の恐竜を見せたらご機嫌になった。病室で作る子や「お友達に作るんだー」と出られない子のため作っている子もいた。保護者も笑顔で夢中になって作り出来上がった恐竜を皆で動かして遊んでいた。

子どもの声

- ・絵本が大きくて感動しました。
- ・おりがみで恐竜作り楽しかったです。

保護者からの声

- ・部屋から出られなかったが、病室に来て折り紙を教えてくれ息子もとても楽しめました。
- ・折り紙はやらなかったが、出来上がったのをもらえて嬉しかったようです。
- ・また見たいです。・紙芝居、エプロンシアターなど、子どもがとても楽しそうに見ていた。

病院・施設関係者からの声

- ・熱中して作る姿が印象的。
- ・親子で一緒に一つの作品を作ることは思い出になると思う。
- ・手順の聞くこと折ることに集中しており、折り紙だけでなく他に何かを実施するにおいても役に立つことだと思う。
- ・ワークショップ後も病室で折り紙を楽しそうに実施していた。
- ・いつも病室で変わりばえないので、外の世界が分かるようなことがいい
- ・いつもはにかんであまり喋らない子も夢中で声を上げたり、工作をして喜んでいて。とても楽しんでる表情が見られて良かった。

(コーディネーター 多田 優子 戸田 綾)

実施病院 千葉県こども病院

プログラム名「ののはな劇場」人形劇団ののはな



実施場所：①5 病棟プレイルーム 病室訪問 ②6 西病棟プレイルーム その後病室訪問
 実施日時：2017 年 7 月 26 日 (水) ①13：30～14：15 ②15：30～16：15
 参加者数：総数 48 人
 内訳①子ども 6 人(乳児 4 人 幼児 2 人) 保護者 4 人 病院関係者 3 人(看護師 1 人 保育士 2 人)
 病室 子ども 7 人(乳児 6 人 年齢不明 1 人) 保護者 2 人 病院関係者 2 人(看護師 2 人)
 ②子ども 12 人(乳児 2 人 幼児 5 人 小学生 4 人 中学生 1 人) 保護者 4 人
 病院関係者 2 人(看護師 1 人 保育士 1 人)
 病室 子ども 4 人(乳児 3 人 幼児 1 人) 病院関係者 2 人(看護師 2 人)
 スタッフ数：演者 2 人(人形劇団ののはな： 納富俊郎 納富祥子)
 コーディネーター 3 人

プログラムの内容

「ウレタンロボット」「コップンシアター」「ぴよんちゃん・けろちゃん」「スーパー人形劇」
 「わたしのおじいちゃん」「かばのかっちゃん」

当日の様子

乳児はお母さんや保育士が側にいると安心したように、動く人形をじっと見入って、歌に合わせて自分でからだをゆらしていた。バギーに乗っていた女の子が身体を起こして、身を乗り出すようにして、手を伸ばしながら観ていた。幼児は病気を忘れたかのように、人形に声をかけたり歌ったり、「かえるの歌が～♪」を歌い、「けろけろクワッ！クワッ！」のリズムで人形を出したりひっこめたり、人形を持たせてもらって存分に楽しんでた。重度の障害があり、年齢はかなり上だと思われる男の子は、納富さんの歌に手を動かして反応していた。「応援してね」の納富さんの投げかけに、「いいよ」と大きな声で答えていた。静かに見ていた小学生はスーパーの袋に空気を入れてクシュクシュと即興でつくった、ちょっとシュールな白雪姫のおばあさんやクリスマスのトナカイみて「ステキ！楽しい！」と言った。想像力を働かせて味わっていた。ケロちゃんが「こんにちは」と言っただけで大喜び。納富さんが「怪獣いませんか？」の問いかけに「いませんよー！」とすぐに反応。「オオカミさんは何食べた？」「カレー！」掛け合いに笑い声が出た。病室訪問では、「プレゼントはここに置いておくね」と声を掛け、ベッド横の台に乗せて、「さようなら」と挨拶すると手を振って応えていた。届いていたことが実感でき、嬉しかった。みんなにおみやげがあり、子どももおとなも嬉しそうに受け取っていた。

保護者からの声

- ・頂いたロボットを上手に使えるように、今日から練習します。
- ・頂いたロボットがすごいうまく作られていて、何回も作ったんだなと思った。
- ・カバがお腹がいたいシーン、カバがたべるところすき！カバのかっちゃんの劇じかけもわかっておもしろかった。
- ・とても楽しかった。スーパーの袋や紙などで簡単にできそうな遊び方を教えてもらいおうちに帰ったら娘とやってみたい。
- ・1年～中学生のお子さんまで、また、お母さんたちも楽しませていただいた。はじめての劇にビックリして泣きそうなお子さんもいたが、目を丸くして真剣な表情に変わった。

病院関係者からの声

- ・子どもたちは、とても楽しそうだった。普段とちがう体験ができて良かった。こういう活動はありがたいと思っている。
- ・若い男の医師が通りかかるとにぎやかなプレイルームを見て「いいねこれ、楽しい！」と言ってしばらく人形劇や子どもたちをニコニコして見ていた。

(コーディネーター 岡田泰子)



実施場所：①7階病棟プレイルーム ②病室訪問

実施日時：2017年8月10日（木）15:30～16:30

参加者数：総数 17人

内訳 ①子ども11人（小学生10人 中学生1人） 保護者2人 病院関係者3人（看護師3人）

②子ども1人（小学生1人）

スタッフ数：指導者4人（団体名：(特)千葉中央おやこ劇場 千葉北おやこみるあそぶ会）

コーディネーター2人 団体構成員 2人

ワークショップの内容

- ・導入：人形をつかった歌「かえるのうた」、エプロンシアター「フルーツパフェ」
- ・工作：キーホルダー（ビーズ） こま（CD ペットボトルのキャップ プリンカップ）
ケーキ（スポンジ ビーズ） ドリームキャッチャー（毛糸 木の枝）

当日の様子

「カエルのうた」が始まると初めてみる指導者やカエルの人形に最初は戸惑っていたが、すぐに笑顔が出た。歌う子、耳栓する子、きゃはは、と笑い合っている女の子たち。エプロンシアターのいろとりどりのかき氷の登場に「へえ〜」と歓声が出た。何色?の質問にすぐ反応して答えていた。完成した「フルーツパフェ」がグラスから浮いているのを見て「浮いているよ!」とみんな大きな声で笑いあった。工作開始。まずはキーホルダーが人気。小さな手で一生懸命ビーズの細かい穴に糸を通す、糸を結ぶ。金具にビーズを通した糸をつけるところが難しいが、「自分でやってみる。」と、真剣な表情で取り組んだ。カラフルな毛糸を小枝に巻いていくドリームキャッチャー、スポンジにビーズでデコレーションするケーキ、と興味のあるものから集中して、となりの子と話しながらつくっていた。手の手術で片手を包帯した小学生は、指導者が手を添えながらスポンジケーキづくりと一緒にじっくりとしたところ、時間中にたくさん作り、満足そうな笑顔がでた。ゆっくり関わりが持ててよかった。中学生の男の子がひとり、廊下のテーブルで工作を始めた。ビーズの色は赤系、上手に完成「誰かにプレゼント?」と聞いたら「特にない」と恥ずかしそうな笑顔で答えてくれた。首の病気で病室から出られない子にプレゼントしてほしいとのことで、キーホルダーをつくって訪問した。「きれい!ありがとうございます」と恥ずかしそうな笑顔、何度もお礼を言っていた。

子どもの声

- ・いろんな物を作れた。お守りや、手回しゴマ、キーホルダーを作った。自分だけのキーホルダー、世界に一つのキーホルダーを作れた。とても楽しかったので、今度は、学校か保育所など活動のはばを広げてください。ありがとうございました。
- ・かわいいのが、いろいろ作れて楽しかった。
- ・作ってみてこんな物がつくれるんだなと思った!とても楽しかった。

病院関係者からの声

- ・手術直後で病室をでられない小学生に何かプレゼントがほしい、と担当看護師にリクエストがあり、ストラップ、スポンジケーキをあげるととても喜ばれた。
- ・こども達に楽しい時間をありがとうございました

(コーディネーター 岡田泰子)

実施病院 千葉大学医学部附属病院

プログラム名 「ののはな劇場」



実施場所：①クリーンルーム ②エレベーター前ホール

実施日時：2017年 7月 27日(木) ①10:00~10:30 ②11:00~11:40

参加者数：総数 48人

内訳①子ども 7人(幼児4人 小学生2人 高校1人) 保護者7人

病院関係者9人(医師2人 看護師3人 保育士2人 職員2人)

②子ども 10人(乳児2人 幼児1人 小学生6人 中学1人) 保護者9人

病院関係者6人(医師2人 看護師2人 保育士2人)

スタッフ数：演者 2人(人形劇団ののはな 納富敏郎 納富祥子)

コーディネーター2人 スタッフ2人

プログラムの内容

ウレタンロボット こっぷんこシアター びよんちゃんとケロちゃん スーパー人形劇
わたしのおじいちゃん カバのかっちゃん 等

当日の様子

保育士が楽しく挨拶すると、みんなニコニコ顔になった。ウレタンロボットの動きに子どもたちがきゃしゃと喜んだ。お母さんが口を押えたり顔をおおったり涙を流さんばかりにゲラゲラととても笑っていた。子どもたちは、じーっと見つめていて、どんどん引き込まれていくのが分かった。「おかあさ〜ん」と演者が舞台裏に去っていくとき、「はいよー」と子どものひとりが言っていた。こっぷんこシアターは、紙コップがどんどん大きくなっていくのを楽しそうに見ていた。僕の大好きな物、「カレー」と、声がかかった。次々に出てくるものを良く見ていた。ぞうさんの所では、顔も左右に振ってみんな楽しそうに歌った。どんな動物もぞうさんの替え歌だったので、みんなが笑った。だっこされていた子、うさぎさんが出てくると指差してうれしそうだった。おじいちゃんは何を思い出してるのかな?に「ふるさと」と男の子が言ったり、はえを捕まえられずに残念のカメレオンに、「ドンマイ」の声もあった。動物当てや果物当てなどのクイズもあり、みんな考えて、一体感も感じられた。子どもの笑顔を見る大人がとても微笑ましかった。

子どもの声

- ・ウレタンロボットたのしかったよ。 ・みんなと人形げきを見れてうれしかった。
- ・カバのあかちゃん、どうやってうごかしていたのですか? ウレタンロボットのこえがおもしろかった。もっとみていたかったな。またきてください。 ・かわいいどうぶつがたくさんでてきておもしろかった。カメレオンの舌が何でできているのか不思議だった。本物のように見えた。 ・スーパーのふくろが、かえるからおばけになったり、とてもたのしかった。

保護者からの声

- ・次から次へと出てくる人形たちに思わず引き込まれあっという間の時間だった。隣で声をだして大笑いしている我が子を見て、やっぱり笑顔っていいな、笑い声っていいなと思った。
- ・いろいろな人形が登場し、どのキャラクターもとても惹き付けられた。2歳の娘は初めての人形劇だったが、夢中で観ていた。今日から初めての入院で緊張していたが、親子共に緊張がほぐれ、楽しい一時だった。お土産のひよこのパタパタストローもお気に入りです。

病院関係者からの声

- ・公演後も子ども達の興奮が続き、一日中病棟全体に笑顔があふれているようだった。また普段は口数の少ない年長の児も看護師から様子を聞かれると楽しげに報告し会話が弾んでいた。

(コーディネーター 大森 智恵子 宇野京子)



実施場所：①クリーンルームプレイルーム ②一般病棟プレイルーム

実施日時： 2017年8月24日(木) ①9:50~10:30 ②10:50~11:30

参加者数：総数 35人

内訳① 子ども9人(乳児1人 幼児4人 小学生2人 中学生2人) 保護者8人
病院関係者3人(看護師1人 保育士2人)

② 子ども6人(幼児2人 小学生4人) 保護者6人
病院関係者3人(看護師1人 保育士2人)

スタッフ数：指導者4人((特)四街道子どもネットワーク所属) コーディネーター2人 団体構成員2人

ワークショップの内容

身近な材料を使い楽しく作って遊べる工作として 折り紙で作るクネクネ動く動物、ビーズのストラップ、台所用スポンジのケーキ、くるくる回すと絵が変化する紙皿を講師と保護者と一に作る。

当日の様子

子ども達はプレイルームのテーブルに並べてある工作見本を見回して、すぐに作りたいものが決まり、指導者から作り方を聞いて保護者と並んでお互いに見合いながら、一緒に作り始めた。子どもが材料を選んでから保護者が作り、最後の目や口は子どもが描いて手に取って動かして遊ぶ幼児の姿があった。ほとんどの子どもが一つ出来たら「別の物も作る」と言って挑戦した。できた作品を看護師や保育士に見せて「アニメのキャラクターの色だよ。」と説明をして誇らしげに病室に持ち帰っていた。プレイルームで待ち合わせをして一緒に工作をしようと誘い合ってきた子どももいた。ゆったりとした雰囲気の中で子どもと保護者が熱心に取り組み、保育士に「きれいな色ね」「かっこいい」と声をかけてもらう度に拍手がおきて盛り上がっていた。保育士が子どもを抱っこして見ていてくれたので、保護者もリラックスして作り、安心して作品を仕上げ、うれしそうだった。

子どもの声

- ・初めて体験をして緊張したけど、みんなやさしくしてくれたので話しかけやすかった。上手にできたので記念になった。
- ・ストラップは自分の好きな色をたくさん使えて思い通りの物が作れた。スポンジケーキはカラフルな飾りがたくさんあって何を使うかとても悩んでしまった。可愛い物が作れて良かった。

保護者からの声

- ・息子が「自分でやる！」と難しい作業にも挑戦する姿がうれしかったです。ストラップはお姉ちゃんに作ると張り切っていたので渡せる日が楽しみです。
- ・入院初日に、楽しいイベントを知る事ができ子どもの不安も減らす事ができたと思います。
- ・入院生活は刺激が少なく毎日単調に過ごしていたので、予定表を見て楽しみにしていました。

病院関係者からの声

- ・ワークショップの後、子ども達が医師や看護師に作品をうれしそうに見せ、盛り上がる光景が病棟のあちこちで見られた。子ども達にとって楽しみやストレス軽減の効果をもたらすだけでなく、医療者との距離を縮める一助となっていることを実感している。

(コーディネーター 塩沢千秋)

実施病院 千葉県千葉リハビリテーションセンター

プログラム名「アフリカの熱い風」サマーコンサート



実施場所：大ホール

実施日時：2017年 8月7日(月) 10:45 ~11:30

参加者数：総数 132人

内訳 子ども 76人(幼児 20人 小学生 20人 中学生以上 36人)

保護者 18人 病院関係者 38人(医師 2人 看護師 15人 保育士 21人)

スタッフ数：演者 3人(ピタシカオフィス:BB モフラン ダウディ・ジョセフ 當間典司)

コーディネーター 3人

プログラムの内容

- ・一緒に手をたたこう 身体を動かしてリズムをとり、声を出そう、ライオンキングの歌と演奏
- ・トーキングドラムの演奏(どんぐりころころ、おもちゃのチャチャチャ)
- ・アフリカの歌(カタクリソー) ギターとピアノ演奏と唄(マライカ)
- ・アンコール「オーハッピーデイ」

当日の様子

全員が車いすやベッドで大ホールまで移動してきた。親子連れもいる。個々に看護師や作業療法士、保育士などが手厚く付き添い、完璧なサポート体制でのコンサートが始まった。響き渡るような太鼓のリズムに乗せて「アキハバラ ミゾノクチ」と合わせると、モフランさんが「たのしい?」「たのしい!」「スゴイ」「スゴ〜イ」とみんなを褒める「オワワ オワワ ヘイヤー ヘイヤー」太鼓の音が甲高く会場に響き渡る。カスタネット、タンバリン、スズを持って、音楽に合わせるようにならしたり、病院スタッフが手を動かしてあげ、口を大きく開けて一緒に楽しんでいた。体全体をゆすっている子。あー、あーと声をだしている子。リズムに乗ってくるとじっとしてられないとばかりに車いすがガタガタと動かしだした。付き添っているお母さんがリズムに乗って笑っているわが子を見つめて嬉しそうに車いすに潰えているボードを演奏と一緒にたたきリズムをとっていた。一緒に演奏しているように正確なリズムで叩いている子もいた。ピアノ演奏が始まると音に興味があるのか、近くまでスタッフに連れられてきた女の子がじっと演奏を見つめた。「♪頭 肩 腰ビリビリビ♪ ♪頭 肩 腰ビリビリビ♪」とフィナーレのダンスが始まった。「トリトリトリトリ」「キリンダンス キリンダンス」いろいろなダンスが何度も繰り返され、アフリカの楽しい雰囲気会場いっぱいひろがった。

保護者からの声

- ・今日から入院なんです、ラッキーでした。

病院関係者からの声

- ・医療的ケアを必要とする重症心身障害の利用者にとって、ベッドから離れ、病室から出て、何かのイベントに参加するために朝から準備をしてもらい、会場まで移動していく事が、貴重な体験です。特にコンサートとなると、参加できる機会も少なく、何より、いつも一緒に過ごす皆と一緒に楽しめる時間は格別です。そして声を出しても、音を出しても身体を大きく動かしても、なんでも受け入れてもらえ、それぞれのあり方で自由に楽しい気持ちを表現することができるプログラムは利用者にとって大変意味のある内容です。QOL 向上の成果は十分にありました。

(コーディネーター 綿貫のぼら)



実施場 : ①1階C病棟 ②2階C病棟

実施日時: 2017年 8月7日(月) ①10:00~10:30 ②10:30~11:00

参加者数: 総数 67人

内訳 子ども36人(中学生30人 高校生6人)

保護者1人 病院関係者30人(医師5人 看護師15人 保育士他10人)

スタッフ数: 指導者4人(ビタシカオフィス所属 BBモフラン ダウディ 典子)

コーディネーター2人 団体構成員2人

ワークショップの内容

- ・トーキングドラムをたたいてみよう

当日の様子

ベッドの上には「ライオンキング」のカラー写真と「ジャンボ！」と書かれ紙が一人ひとりおいてあり、待ってました！という気持ちが伝わっている。モフランさんたちが入ってくると、見慣れない外国の人が来たことで、びっくりしている様子だった。目が点になっている子もいる。ベッドで目をつぶっているように見えた男の子、モフランさんの声と歌が聞こえると、大きく見開いた。「あんなに大きな目だよ！」と看護師同士で言い合っていた。音にびっくりして目を大きく開き、口を動かし、手も動いて喜びを体いっぱい表現し、看護師や療育士の方々が「あわ！よろこんでいる」「こんな顔普段はみたことがない」と、普段の日との違いをはっきり感じたようで、嬉しそうに声を張り上げた。看護師が子どもの体をトントンを叩き、目を開けさせて「ほらほら」と手を添えて楽器に触らせている。ベッドで寝ながらも、バチを持ってトーキングドラムをたたくことができ、うれしそうに大きな口を開けたり、目をきょろきょろ動かしていた。ベッド上で動けない子が、どこかで音がする、雰囲気を感じたようにあたりを目で追っていた。車椅子に乗っていた男児は、満面笑顔で、モフランさんたちとハイタッチ、うれしそうだった。前からいる歌の好きな女の子は、びっくりしたのかおとなしかったが、少し離れたらニコツとした。お姉さんになった。

保護者からの声

- ・付き添っておられたお母さんが、「口をもぐもぐしているのは喜んでいるの」と我が子の姿を見てうれしそうに教えてくれた。

病院・施設関係者からの声

- ・手が動い、自分から太鼓に触ろうとしていた。
- ・遠くで、誰かをやっているときは、目をくしゃくしゃにしてうれしそうだったのに、自分の所に来たら、びっくりしたようで固まっちゃったよ。
- ・眠そうだったのに、傍で音をだしたら、目をすごくあけた。

(コーディネーター 綿貫のぼら)

実施病院 千葉市立海浜病院

プログラム名 「ハローカンクロー ねずみのすもう」



実施場所：プレイルーム

実施日時：2017年 8月9日（火） 10:30 ~ 11:30

参加者数：総数 29人

内訳 子ども13人(乳児2人 幼児7人 小学生3人 中学生1人)

保護者7人 病院関係者9人(看護師2人 保育士3人 インターン4人)

スタッフ数：演者 1人(人形芝居燕屋 くすのき燕さん)

コーディネーター2人 スタッフ1人

プログラムの内容 ・腹話術『ハロー！カンクロー』約15分
 ・肩掛け人形劇『ねずみのすもう』約30分

当日の様子

はずかしがりやのカンクローが、あいさつがちゃんとできず、生意気なことを言ったり、ヘンな「ドレミの歌♪」を歌うと、笑ったり教えてあげたりと声も出始めた。カンクローが牛乳を飲む場面では「のんでるー のんでるー」とびっくりし、「おいしくない」とカンクローが言ったので、大笑いだった。抱っこされていた子がママの顔を振り返り、膝を離れてひとりで前に出て座るなど、カンクローが子どもたちの心を掴んだようだ。

肩掛けの舞台から、ねずみのちゅう吉とちゅう子ちゃんが登場すると、「わっ！」と、珍しいスタイルに、さっと興味がわいてくぎ付け。ちゅう子ちゃんがちゅう吉を見て「きゃー、ねずみ」と言ったので、「自分もねずみだよ」と、前列の男の子がすかさず言った。ちゅう吉とちゅう子ちゃんのほほえましい会話や、ちゅう吉がちゅう太郎に相撲を挑まれ投げ飛ばされてしまう場面では、あちこちで笑いが起きた。再挑戦をしようと筋トレに励むが、お腹がすいて走れないちゅう吉の、余りにもよわい姿に「よわ」と言う子もいた。おモチをつく場面や食べる場面、次々に出てくるお話に夢中になっていた。おモチを食べてモリモリ元気になって、「ワッセワッセ」と軽快にランニング、腹筋がついたちゅう吉が登場すると、「おお！」と、ちゅう吉の変化が目にも見てとれたよう。いよいよ対決の日、ファンファーレが鳴り、すもう対決が始まった。しこを踏み、「はっけよい のこった のこった」子どもたちも一緒に対決しているようだ。おいかけっこでちゅう太郎を見失ったちゅう吉に「ちがう、うしろ」「ちがうよ、こっちの下」と、一生懸命に教えてあげ、ハラハラドキドキしながら応援した。変身したり、遠くに行くほど小さくなるねずみたち、巻物での景色など、細かく繊細な人形劇の「しかけ」は、パパにも大うけし「フフフ」と笑いだし、その後はノリノリになって、人形劇にはまって大笑いしていた。

子どもの声

- ・カンクローくんがねむくなったところやまちがえてばかりのところがおもしろかった。
- ・ねずみのすもうたのしかった。
- ・ぜんぶ たのしかったよ！ いっぱいわらったよ。わっはっはっ

保護者からの声

- ・たのしかった！その一言！ ・息子はもちろん、大人もとても楽しかった。
- ・親子共に楽しく拝見した。病院にいるとなかなか楽しみがないのでとても良かった。
- ・入院して1週間、久々の大笑いしている息子をみて嬉しかった。ありがとうございます。

病院関係者からの声

- ・子どもが楽しんでいるのはもちろんだが、付き添いのお母さんたちがホッとされるのを見た。保護者やきょうだいの気持ちがゆるむように支援することが大事ですね。
- ・子どもたちも親御さんも笑い、病室では見せることのない顔でした。笑いは治療のひとつと考えます。』またぜひいらしてください。

(コーディネーター 中村雪江 岡田泰子)



実施場所： ①プレイルーム ②病室訪問

実施日時： 2017年 9月 26日(火) 10:30 ~ 11:40

参加者数：総数 32人

①子ども7人(乳児1 幼児5 中学生1) 保護者5人 病院関係者8人(看護師3 保育士3 学生2)

②子ども5人(2部屋)(幼児2歳3 小学生2) 保護者3人 病院関係者4人(保育士2 看護師1 学生1)

スタッフ数：指導者4人(つかだおはなし会：大崎あけみ 岡田泰子 子ども劇場千葉県センター2人)

コーディネーター2人 団体構成員2人

ワークショップの内容

- ・絵本の読み聞かせ「動物サーカスはじまるよ」 ・紙しばい「ごきげんのわるいコックさん」
- ・「ふうとう紙芝居」封筒に窓を開けて、絵を描いたり、シールを貼った厚紙を3枚いれて、スライドしておはなしを作る。病室から出て来られなかった子全員(約20人)にキットを渡した。

当日の様子

はじめて病室をでてきたよ、と看護師が乳児を抱っこしてきた。自分で歩いたり車いすに乗ったりと集まってきた子どもたち、保護者、病院関係者は笑顔で楽しみなようすだった。皆、拍手一に、手をパチパチ、人見知りせずニコニコしていた。読み聞かせは参加型の内容で、拍手したり応援のかけごえをかけたり、部屋の雰囲気がひとつになっていった。工作は、色とりどりのマスキングテープ、折り紙、シールを好きなだけ使い、おしゃべりしながら自分だけの「紙しばい」を作った。子どもが電車のシールを横並びに貼ると保護者が色鉛筆で結び、長い電車ができあがった。スタッフが赤ちゃんを抱っこしている間、留守番のお兄ちゃんのお土産にとクイズ仕立ての紙しばいを作ったママは満足そうだった。中学生は別のテーブルで、看護師と友達のように、動物の絵を描いてうれしそうだった。「ゾウの親子」「うさぎの親子」「ねこ」のカットを貼った2セットを完成。2歳児の病室では3組の親子、ママのおひざやベッドに座ってじーっと見ている、時折ニコッと笑った。拍手一でみんなで拍手した。6歳児の病室は男の子と女の子の部屋。ライオンの火の輪くぐりの成功に「おー!」。ワニは何になったかな?「ピラミッド」と答えて大正解、ノリがよかった。ふうとう紙芝居でお話作ってねというのと、「OK わかった。」と、笑顔で答えた。

子どもの声

- ・さいご、ぶたさんがとんだとき、すごかった。 ・ありがとう
- ・ライオンのわくぐりが、ひとつひとつくぐってすごいなおもった。
- ・よみかせありがとう。私もブタさんのように振られたら、何でも挑戦できるようになりたい。

保護者からの声

- ・体調が良くなるにつれ、ベッドの上ばかりではストレスがたまっていたところでした。ごきげんで過ごすことができた。ありがとうございます。
- ・とても喜んでいました。お絵かきやシールはりが大好きで病院でも楽しい場所があると知れて私も子どもも安心した。

病院関係者からの声

- ・読み聞かせの際、拍手をしたり、皆で数を数えたり、楽しさを感じることができた。自分でストーリーを描き、作るのも封筒で簡単にできるので、とても良い作品だと感じた。学生として今後の実習でも参考にさせていただきます。(看護学部学生)
- ・入院中たいくつだったり、痛いことをがまんしたり、おうちに帰りたいとか、色々な気持ちでいる子どもたちに、楽しい時間をくださることはとてもありがたい。入院中に作った工作も思い出に残るなかと考えた。

(コーディネーター 宇野京子 中村雪江)

実施病院 独立行政法人国立病院機構千葉東病院

プログラム名 「チカパンのパントマイム！」



実施場所：小児病棟 ①プレイルーム ②病室

実施日時： 2017 年 8 月 24 日 (木) ①15:15～16:00 ②16:10～16:20

参加者数：総数 17 人

内訳① 子ども 10 人(小学生 5 人 中学生 5 人)

保護者 3 人 病院関係者 2 人(看護師 1 人 保育士 1 人)

② 子ども 1 人(小学生 1 人) 病院関係者 1 人(看護師 1 人)

スタッフ数：演者 1 人 チカパン(パントマイムプラネット)

コーディネーター 2 人 団体構成員 1 人

プログラムの内容

- ① プレイルーム公演:パントマイムを楽しむ。「夏のパントマイム」でスイカ、渦巻きソフトクリーム。「ゴチン」でどンドン壁にはさまれて最後、脱出。「これなんだ？」でちょうちょ。「ロボット」で今まで動いていたパワーが切れて静止したロボットが参加した保護者のお父さんや子どもから胸のねじを巻いてもらい、また動き出す。大道芸(伊藤看護師といっしょに)。鈴やパフパフをつけた二人の掛け合い。ジャグリング、皿回しに挑戦。最後はパントマイム「グッドモーニング」と「バッドモーニング」。
- ② 病室公演:子どもとお話ししながらバルーン芸。「花とみつばち」など。

当日の様子

チカパンが小児病棟の廊下をウクレレを鳴らしながら「チカパンのパントマイムが始まるよ♪東京の世田谷から来たんだよ♪」と歌って歩きウォーミングアップ。子どもたちが顔を出した。公演では最初に「パントマイムを見たことある人は？」のチカパンの問いかけに全員が初めてだとわかった。みんな始めはじっと見ていたが、看護師が大道芸のお手伝いに入ったことで身近になったようで、笑い声が出て子ども同士でも、親子でも顔を見合わせて話したり楽しんだりしていた。何のパントマイムか、子どもたちが答えると、チカパンは「その連想、素敵だね」、「すばらしい！ありがとう」、「自分の言葉を上手に言えない人は、今日のチカパンのパントマイムを思い出して。言葉じゃなくても気持ちは伝わることを。やってみて」と伝えていた。

病室訪問では、チカパンは女の子に穏やかに話しかけながら花とみつばちのバルーンをつかって、お友だちと遊べないときにも遊べるようにとプレゼントした。子どもがフッと息を吹きかけるとバルーンがプッとふくらんだ。「元気を注入したよ」と話しかけるとニコッとした。

子どもの声

- ・パントマイムやりたくなった。杉並区いったときにさがします。
- ・パントマイムすごかった。かべがないのにあるようにみえた。パントマイムで何をやっているかわかった。おもしろくて楽しかった。チカパンさん、ありがとうございました。
- ・「パントマイム」って言葉もあまり聞いたことはなかったが、パントマイムを見て、すごく楽しいものだとわかった。わざわざ遠い場所からありがとうございました。

保護者からの声

- ・すごく楽しい時間になった。初めて、生のパントマイムを見て感動した。たくさんの笑顔ありがとうございました。

病院関係者からの声

- ・子どもたちの真剣に見ている姿や心から楽しんでいる姿を見ることができ、良かった。
- ・ウクレレの音を聞いて病棟中が幸せになった。子どもたちが喜んでいてありがたかった。

(コーディネーター 笠原直子)



実施場所：療育指導室①31 病棟デイルーム ②32 病棟デイルーム

実施日時： 2017年8月 22日(火) ①14:00～14:30 ②14:40～15:10

参加者数：総数 89人 ①子ども 43人(幼児～中学生 18人 高校生以上 25人)

病院関係者 12人(看護師 7人 保育士 5人)

②子ども 19人(幼児～中学生 10人 高校生以上 9人)

保護者 10人 病院関係者 5人(看護師 2人 保育士 3人)

スタッフ数：指導者 4人(団体名 ToyBoxd 所属)

コーディネーター2人 団体構成員 2人

ワークショップの内容

歌声、フルート、チェロ、ピッコロ、オカリナ、ピアノ、キーボード、ボイスパーカッションなどの各音色が優しく、時にリズムカルに響き合った。クラシック、童謡、ディズニーやアニメのメドレー、ポップスなどバラエティに富み12曲演奏。一緒に歌ったり、指導者手作りの星飾りを振ったり、病院スタッフが用意したジャンボカスタやマラカスを鳴らして楽しんだ。

当日の様子

31病棟の会場は、車いすやベッドでびっしり。始まると保育士や看護師が子どもに語りかけながら肩や手に触れリズムをとっていた。子どもたちは初めて聴くチェロ、フルート、オカリナなどの音に興味津々。アニメの曲では表情が明るく、ディズニーの曲ではノリノリになり「わあ～ あ～」と声を出した。普段はこんな笑顔や声は出ないということだ。歩行器に乗っていた男子が音楽に合わせて「ハイッ！ハイッ！」と声を出し、前後上下に盛んに頭を振っていた。スタッフが「合いの手がうまいねえ！」と笑ってほめていた。きらきら星では、指導者手作りの星飾りを持ったり、スタッフと一緒に持って振ったり、病院が用意していたジャンボカスタを揺らしリズムに乗っていた。32病棟の会場は、付き添っている保護者が多かった。わが子やまわりの子どもたちに話しかけながら体に触れたり、一緒に歌ったりしていた。子どもたちは声を出し、笑顔で手をぶらぶらと振り足も動かした。親の顔をじーっと見つめて目を動かしている子もいた。目が見えないという幼児は頭を動かして静かに聴いていた。保育士が「目は見えないが、音にもものすごく敏感でよく聴いている」と、その子を抱っこしながら教えてくれた。音楽が大好きだという子は、終演後も立ち去りがたく、付き添っている親が「今日はうれしくてこんなに笑っている。ぜひまた来てください」と子どもの気持ちを代弁していた。

保護者からの声

- ・生きててよかった！うれしい！！
- ・リズムにのってとても楽しかった。自分が好きな曲にあわせ車いすを自分で動かしていた。親子で楽しいひとときをすごせ幸せを感じています。

病院・施設関係者からの声

- ・優しい音色で素敵だった。みなさん、いい表情をしていてとても良かった。
- ・一番驚いたのは、医療機器を身に付けて参加していた子が、チェロの音がすると数値がとても安定していて、きっと本人にとってとても心地よい響きだったのだと思う。
- ・普段病棟では色々な経験が乏しく、生で音楽に触れることはほとんどない。ひとりひとりがそれぞれに感じる事ができ、サインとして笑顔や発声にして見ることができた。このすばらしい体験がこれからも続いていけばよいと思った。

(コーディネーター 笠原直子)

実施病院 独立行政法人国立病院機構下志津病院

プログラム名 「歌子さんのスマイルコンサート」



実施場所：下志津病院 療育訓練室

実施日時： 2017 年 8 月 30 日（水） 14：00 ～ 14：50

参加者数：総数 109 人

内訳 子ども 63 人（幼児 3 人 高校生以上 60 人） 保護者 10 人 病院関係者 36 人（看護師 11 人
保育士 14 人 療養介助員 4 人 児童指導員 5 人 事務職員 2 人）

スタッフ数：演者 3 人（ 団体名 リーフ企画 名前 歌子さん・ぴんたろう・上村純 ）
コーディネーター 2 人 団体構成員 2 人

プログラムの内容 歌、ギター演奏、アフリカンパーカッションのバンド演奏

- ①アイスクリーム ②しゃぼん玉(参加者の間を歌子さんがしゃぼん玉を吹きながら)
- ③となりのトトロ(歌える人はみんな一緒に歌った) ④いつもなんどでも
- ⑤上村純さんのギター演奏 かえるのうた ⑥おおきな古時計
- ⑦ぴんたろうさん楽器演奏、小さなマラカス、木の実をつないだ「カラカラ」、ジャンベの打楽器
- ⑧砂山 ⑨さとうきび畑 ⑩上を向いて歩こう ⑪ゆかいに歩けば（アンコール）、

当日の様子

当日を本当に楽しみにしていて、7つの病棟から次つぎと病院スタッフが手際よく、それぞれが見やすい、聴きやすい居場所をつくり、会場がいっぱいになった。歌子さんが参加者の間をぬってしゃぼん玉を飛ばし、歓声が上がり、盛り上がり始めた。握手をしたり、背中をとんとんしたり、みんなの表情がすごくよかった。ぴんたろうさんの自己紹介に皆大笑いし、シャカシャカを持って回ると、問いかけに反応して答えていた。ノリノリで歓声があがり、太鼓のウエーブが顔にあたり「ワッ！」と驚いたり、生演奏ならではの場面があった。保育士もいっしょにリズムをとったり、手を振ったりして、楽しんでいた。付き添っていた親御さんは、この時間がとてもよかったようだ。筋ジスの子は退場の最後まで残り、歌子さんと握手し、女の子は手を握ったまま離そうとせず、とても名残惜しそうだった。

子どもの声

- ・また来てください。こんどは平井堅を歌ってほしい

保護者からの声

- ・「私の母も歌子なのよー。芸名ですよー。すてきな歌声でよかったわよー」
- ・同じ病棟の親御さんに誘われ、都合をつけてきてよかった。また聴きたい。
- ・「また、聴きたい」「今日はうちの子、寝ないでしっかり聴いていてご機嫌だった」

病院関係者からの声

- ・今日はテンポのいい曲、リズムのいい曲に参加者でノリノリだった。おおきい太鼓の音にびっくりした人もいた
- ・この療育訓練室では、年 10 回程度は音楽の催しがあり、みんな色々なジャンルの音楽にふれている。でもプロの方を呼ぶのはむずかしく、今日は本当に楽しみに、ポスターを貼り、院内放送でもよびかけた。また来てほしい。
- ・ご家族や職員が、立場に関係なく、入院している方々と同じ物を見て一緒に感動を味わう事で、関係性もより深まったように感じた。

（コーディネーター 椎名好子 岡田泰子）



実施場所： 第3病棟（小児病棟）プレイルーム
実施日時： 2017年 7月 26日（水） 14:30～15:30
参加者数：総数 13人
内訳 子ども10人（小学生5人 中学生5人）
病院関係者3人（保育士2人 心理療法士1人）
指導者： 4人（特） 四街道子どもネットワーク所属）
コーディネーター2人 団体構成員2人

ワークショップの内容

折り紙で作る、クネクネ動くはらぺこあおむし他いろいろ、くるりと回すと絵が変化する紙皿の変わり絵、ビーズのストラップ、不思議サイコロを講師と一緒に作る。

当日の様子

子どもたちは、時間通りにプレイルームに集合。工作をどれから始めるか聞くと、ビーズストラップを選ぶ子がほとんどで、ビーズはとても人気があった。「不思議サイコロを作る」と言った女の子も1人。それぞれのテーブルに付き、工作をやり始めた。皆、手先が器用で、ビーズをうまく、テグスに通して出来上がると、「めっちゃ、うまく出来た。ビーズにはまった。」と、複数個作る子が何人もいた。ストラップのリボンの部分では、リボン結びが難しかったようだ。しかし、やりきろうとする意欲があり、指導者に助けをもらいながら、完成させた。発想を変えて、貝殻のように星ビーズを使っている子もいて、ユニークなデザインが出来上がった。不思議サイコロでは、サイコロの絵柄で迷っていた子が絵を描き始めると、亀、イルカなど、色使いがきれい。「水族館が好き。」と満足そうだった。折り紙で、あおむし、ライオンやねこ、うさぎを作る際は、保育士と子どもたちが和気あいあいと話をしながら、クネクネ部分の胴体を折り紙で折っていた。「かわいい、すてき」と声をかけあい、ゆったり落ち着いて、リラックスした雰囲気で作っていた。

子どもの声

- ・ビーズストラップ、とても楽しかったです。家でも作りたい。
- ・作ってみると楽しかったり、色々こだわったりして、おもしろかった。
- ・伸びるライオン、パーツも自分で作って、すべて作りたい。
- ・ビーズがとてもキレイで色々な色で作れてうれしかった。
- ・又、きかいがあったら、みんなで作りたい。

病院関係者からの声

- ・みんな集中して工作に取り組んでいたと思う。職員も楽しむことができた。できあがった作品をお互いに見せ合い、感想を言い合う事も、子どもたちにとってはいい経験になったと思う。
- ・子どもたちなりにいろいろ工夫して、たくさん笑顔が見られた。とてもたのしそだった。
- ・表情や自己表現が明るくなった。
- ・自分の感情や自分自身のことを作品を通して、他の子へ表現することができて、子どもたちも発散や交流の場になっていた。

（ コーディネーター 市川淑江 ）

実施病院 国立研究開発法人国立国際医療研究センター国府台病院

プログラム名 「アンディ先生のマジックショー」



実施場所： 東 3 病棟ホール

実施日時： 2017 年 9 月 20 日 (水) 14:30 ~ 15:30

参加者数：総参加数 46 人

内訳 子ども 33 人 (小学生 8 人 中学生 25 人)

病院関係者 13 人 (医師 5 人 看護師 5 人 臨床心理士 3 人)

スタッフ数：劇団関係者 2 人 アンディ先生(マジックファクトリー)

コーディネーター 2 人 スタッフ 2 人

プログラムの内容

ボーリングの球の絵が本物になって飛び出す ろうそくの火 紙が帽子に変身 穴の開いた卵が本物の卵に 四次元BOX (どンドン出てくるハコ) マジック教室 (ハンカチと割り箸で貫通マジック ティッシュが消える) スクリーンマジック (トランプの妖精の数字当て、サインをしたカードがいちばん上に カードがペットボトルの中に) みんなでスプーン曲げに挑戦 他

当日の様子

早めの時間からチラチラ見に来る子がいて、時間になるとニコニコと集まり、みんながマジックを楽しみにしている様子だった。次々に目の前で起こるマジックの不思議に「すげえ!」「えー!」「まじ?」と連発しながらどンドン前のめりになって興味津々。ボーリングの絵から本物のボールが飛び出し「すげー!」ボールを触らせてもらって不思議は募るばかり。お手伝いしてくれる人?の声かけに何人も手が上がり、女の子が前に出て紙を折ると帽子に変身するマジックをやった。みんなびっくりしながらも拍手がいっぱい。一体感の持てる和やかな空間だった。マジックの練習も少し恥ずかしそうにしながらやっている子が多かったが、種明かしをしてもらおうと「そっかー」「なるほどー」と、いい表情になった。ハンカチの中から割り箸を出すやり方を言われたとおりにやって、「おー!できた」と自分にびっくりしながら楽しんでた。大きな声と拍手でアンコール。スプーン曲げに挑戦し、たくさんの子が曲がった。自分でできてびっくりの様子だった。終わってからもアンディ先生の周りに集まり、サインをもらったり、指輪が消えるサービスマジックを見せてもらったりして名残惜しそうだった。

子どもの声

- ・プロの人でしかできないようなマジックが見れたこと、近くで見れたことがよかった。
- ・緑のハンカチが卵に変わるマジックがすごいと思った。
- ・実際にマジックをできて楽しかった。
- ・スプーン曲げは、テレビで何度も見たことがあったから、実際に自分でできてびっくりしたし、楽しかった。 ・ほくもプロマジシャンになりたいよー

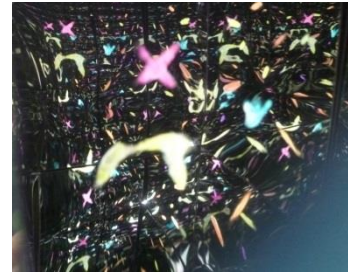
病院関係者からの声

- ・自分にもできるマジックを教えてもらい得意そうでもあり、とても嬉しそうであった。
- ・隔離・拘束のこどもも参加し、自分から手をあげていたのはとても良かった
- ・成功体験が少ない子どもたちなので、自分でもできる(できた)マジックは、成功体験につながっている。
- ・気分転換になっている。こども全員が楽しかったという感情が表現できた。
- ・大人も楽しかった。参加した人すべてが楽しい空間となった。

(コーディネーター 宇野京子)

実施 国立研究開発法人国立国際医療研究センター国府台病院

プログラム名 「世界で一つのキラキラ万華鏡を作ろう！」



実施場所： 院内学級（国府台小学校教室）

実施日時： 2017年 12月 7日（木） 10:00 ～ 11:30

参加者数：総数 13人

内訳 子ども 8人（小学生 8人）

学校関係者 5人（担任 2人、校長 1人、教育実習生 1人、学生ボランティア 1人）

スタッフ数：指導者 4人（団体名 市川子ども文化ステーション）

コーディネーター 2人 団体構成員 2人

ワークショップの内容

- ・六面体万華鏡
- ・スポンジ、ビーズを使ったスイーツ作りは、万華鏡作りに集中出来るように万華鏡を作るのが終わった子から案内した

当日の様子

接待委員長の役をやってくれた6年生の案内で教室に入り、看板を張り出すと歓声が上がって楽しみにしていたことがうかがえた。六面体万華鏡の説明のあと、すぐに取り掛かる子、しばらく考えたり、隣の子の様子を見てから取り掛かる子と様々だった。「手がしびれた。手が痛い。」と、言いながらも仕上がるまで根気よく取り組んでいた。コツをつかんだ時、表情がぱっと明るくなった。まだの子に教えてあげている様子も見られた。試しに箱を組み立てて仕上がり具合を覗くと、模様の拓がりにびっくりし、もっと削るとか、何色にするなど完成を想像しながら作業を進めていた。自分の名前を漢字で削るなどの工夫も見られた。「ソーセージにしか見えない」と言った子もキラキラした模様にうれしそうだった。完成した作品を互いに覗いて見せ合い「わー！」「すごい！！」と感想を言い合ったりして笑顔になっていた。ひとりひとりの達成感が感じることが出来た。終わった子からスポンジスイーツ作りに取り掛かった。たくさんの色とりどりの種類の材料を見て選ぶことに時間をかけていたが、作り始めるとあっという間に完成させた。まだ時間があったので、何個でも作っていいんだよと声をかけると、とてもうれしそうに歓声をあげて選ぶことに夢中になっていた。もっともっとやりたくて時間がいくらあっても足りない感じだった。

子どもの声

- ・すごく楽しくてみなさまのごたいおうがすごくよかった。ケーキや、とくに万華鏡が楽しかった。うれしかった。ケーキ5個、まんげきょう、本当にかんしゃ。
- ・作るのはむずかしかったけど、楽しかったし、漢字がういているのができて、早くお母さん、お父さんに見せたい。
- ・時間かかったけどたのしかった。またやりたい。たっせいかんがすごい。思い出になった。
- ・とってもたのしくて今日一日がすてきなおもいでになりました。ありがとうございました。
- ・3月までにもう一回来てほしい。

病院関係者からの声

- ・子どもたちは、とても楽しみにしていた。それが実現して喜んでいました。
- ・仕上がりを考えながら取り組む力が付いたと考えられる。
- ・全員が完成できたことで、感じ方はそれぞれかと思うが、一人ひとりの自信につながった。
- ・面識のない方々と触れ合うことで、人間関係の幅が広がった。
- ・完成までのワクワク感、のぞいた瞬間の感動、手の痛みも充実感につながり素敵な時間だった。

（コーディネーター 加藤香都代）



施設名 千葉県中央児童相談所

赤い羽根共同募金助成事業

プログラム名 腹話術「ハローカンクロー」 肩掛け人形芝居「さんまいのおふだ」



実施場所： 集団治療室

実施日時： 2017年 6月 21日（火）10:00～11:00

参加者数：総数 31人

内訳 子ども 27人（幼児7人 小学生10人 中学生以上10人）

施設関係者4人

スタッフ数：パフォーマー1人(人形芝居燕屋 くすのき燕さん)

コーディネーター 3人

内容

腹話術「ハローカンクロー」

恥ずかしがりやで生意気な鳥のカンクローとつばめさんとのゆかいなおしゃべりタイム
肩掛け人形芝居「さんまいのおふだ」

日本の民話を人形劇に。小僧さんは裏山に栗ひろい。和尚さんの言いつけをきかずに山奥へ。そこには恐ろしいやまんばが！！子どもたちの大好きなお話が、スリル満点、抱腹絶倒、奇想天外に人形劇で表現されます。燕さんが、ハーモニカ、布、木魚、番傘、お客さんまで参加、大道芸の雰囲気のあるひとり芝居の人形劇です。

当日の様子

子どもたちは和気あいあいの雰囲気に入場した。特に幼児と小学生はひとつの異年齢集団になっていて、舞台前方にぎゅっとつめて座った。中学生はとても仲がよさそうに話しながら座るグループや、後ろや壁際等それぞれの居心地のいい場所に自然にいるかんじだった。

トランクからカンクローが現れたとたんに「かわいい！」「うごいた！」と歓声があがった。「おはよう」のあいさつもなかなかできないで「おやすみ」「いただきます」などトンチンカンなカンクロー。燕さんが「おはようとかこんにちはと言うんでしょ！」と教えるとそのまま「おはようとかこんにちは！」とオウム返しするカンクローに、小学生は「なんかイヤな予感がする！」とか、口々に言って次は何を言うかと想像力を働かせていて、カンクローを友達に感じていると思った。本当に牛乳が減っていくのを見て「人形だと思ったら飲んでるよ～」と驚いていた。小さい子たちはカンクローと燕さんの2人が居ると思ったのではないかと。「さんまいのおふだ」はおしょうさんと小僧さんの会話、やまんばと小僧さんのかけあいで話しが進む。お札を投げながら逃げる小僧さん、「まで～」と追いかける山姥を燕さんは自分がぐるぐる回りながら距離感、スピード感を出したり、豆粒のような人形に代えて遠近感を出したりダイナミックに表現。子どもたちはお話に置いていかれることなく、楽しんでいるようだった。特に、大きい青い布の片方を数人の子どもたちが持ち、波をたてたり、大きい団扇で風を起こしたりと参加の場面では、小学生たちは「〇〇くんガンバレ～」「休むな～」と応援し、それまで静かに見ていた中学生も笑顔で拍手して応援して会場の一体感が増した。幕間の休憩時間は先生と一緒にストレッチをして待った。

施設関係者からの声

・こんな経験は今までなかったと思います。今日はよかったです

（コーディネーター 岡田 鈴木 中村）

実施施設 市川児童相談所

プログラム名 「見たこともない生き物をつくろう」 工作ワークショップ



実施場所： 2F 講堂

実施日時： 2017年 7月 3日(月) 10:30 ~ 11:30

参加者数：総数 25人

内訳 子ども 19人(幼児 6人 小学生 13人) 大人 6人(教師 2人施設関係者 2人保育士 2人)

スタッフ:指導者 4人(人形劇団ひばりあむ 永野むつみ・大沢 直

子ども劇場千葉県センター2人)

コーディネーター2人 団体構成員 2人

プログラムの内容

「見たこともない生き物をつくろう」

当日の様子

指導者から工作について説明、「このものをみんな使っていんだよ、今日の気分はなに色？」と聞かると「赤の気分！」とさっそく声が出た。指導のお話の声や色とりどりの紙やテープ、可愛いはさみを見て特別な雰囲気を感じていた。封筒を「おにぎりみたいに手で丸めるよ、くしゃくしゃ・・・」と指導者が声をかけると「もったいなくて出来ないよ!」「こわれちゃう!」と声が聞こえた。せっかくのきれいな色の封筒なのに・・・といわんばかりの声だ。それでも、くしゃくしゃの封筒に手をいれ、親指をあごの部分にあればくぱく口が動くのを楽しんでいた。飾り付けのブルーの画用紙をシュレッダーにかけると細く切れた紙を見て「雨だー」と真剣な顔で見つめた。低学年の女の子が、型を切り抜くパンチに夢中、楽しそうにいろいろな型を使っていた。力を入れるのに座り込んで使っている子もいた。幼児の男の子、スティックのりのおいを嗅いでいて、保育士が止めてもずーっと嗅いでいた。そのうち、画用紙にのりをつけ始めるがすぐに短くなり、「？」の表情。回し方を見せると、にっこりといい笑顔になった。満足するまで繰り返し、最後にパンチであけた形をはり「やったー!」とばかりにみんなに見せた。子どもたちは最後の最後まで愛しそうに、飾り付けをしていた。 みんなで見せ合いっこの時間、うれしそうな、恥ずかしそうな、でも満足した笑顔が一杯に自分の作品を見せた。最後に今日が誕生日の「見たこともない生き物」に「Happyバースデー」の歌をプレゼントした。

子どもの声

- ・たのしかった。またきてください。
- ・またやりたい。こんどはにぎょうげきをやってください。
- ・人形のつくり方を教えてくださいありがとうございます。

施設関係者からの声

- ・とても楽しい時間を持つことができまして感謝しています。子どもたちの自主性、まずやらせてみる、大人は手を出さないは難しいですね。普段見せない子どもたちの横顔を見ることができた。

(コーディネーター 大森智恵子)



実施場所： 1F 食堂

実施日時： 2017 年 7 月 10 日 (月) 14:00 ~ 15:00

参加者数：総数 37 人

内訳 子ども 27 人 (幼児 9 人 小学生 11 人 中学生 6 人 高校生 1 人)

大人 10 人 (施設関係者 10 人)

スタッフ数：指導者 3 人 B Bモフラン ダウディー 典子 (ビタシカオフィス)

コーディネーター 1 人 スタッフ 2 人

プログラムの内容

アフリカの言葉、日本の言葉。みんなで歌おう！・「どんぐりころころ」「おもちゃのチャチャチャ」「ゴキブリのうた」 みんなで踊ろう！ アフリカの太鼓を叩こう

当日の様子

「ゴキブリのうたはモフランが作ったんだよ！」の話で、幼児がきゃはきゃはと最初から笑っていた。アフリカの言葉で「カタコリソ！」は日本語で「気をつけて!」、「マツタク」は「おしり」、「ミソ」は「目玉」「チョーマジ〜」は「トイレの水」など、同じ音でもアフリカと日本では意味が異なるという話が受けて、みんな笑いこけていた。みんなで踊ろう!で、リズムにのったキリンやタコのダンスはまず最前列の幼児がノリノリで、その姿がほほえましく、かわいらしく、小中学生も職員もみんなが踊った。モフランさんが前に出て踊るように誘うと、すぐに前に出て踊った。静かなかんじでみていた高校生も笑顔になり、手も叩き、少しだけからだも動いていた。太鼓をたたく体験は、打ち合わせでは幼児はきっと飽きるから、後半は退場の予定だったが、幼児はみんな「やる気まんまん」で1歳の子も参加して一生懸命にたたいた。元気いっぱいだった!「ロール」の掛け声で連打、「とんかつ たべる」のリズムをとる打音をみごとに使分け、自分のからだのリズム、仲間のリズムの両方を感じてたたいていた。手が赤くなるほど一生懸命叩いて、みんなにその手をみせていた。職員が太鼓体験に挑戦すると大喝采。子どもと教師の一体感で盛り上がり、最後のアンコールのアフリカンリズムの『ソーラン』をおもいっきり踊った。

子どもの声

- ・いちばんたのしかったのは、タイコのえんそうです。元気なえんそうをきいていたら元気をもらいました。
- ・普段触れることのないアフリカの楽器、音楽、そして踊りを体験することで「全ての人々を笑顔にすることができる」という、音楽の魅力を再発見することができました。またいつか、あのすばらしい音色を聞かせてください。
- ・アフリカンパーカッションのえんそうやダンスなどを、教えて下さりありがとうございました。私も学校の吹奏楽部のパーカッションなので、いろいろしってはいるのですが、日本とはちがっていてビックリしたけど勉強になりました。
- ・ゴキブリとかおもしろかったです。ライオンキングのうたもよかったです。またききたいです。
- ・おどったりたいこを叩いたり、そして楽しい演そうなど、そしてコンゴの人の言葉やアフリカの言葉などを教えて頂きありがとうございました。また楽しい演奏を聞きたいです。

施設関係者からの声

- ・職員が「うちの子たちいいでしょ?」と何度も私たちスタッフに話かけてくださった。感激されているようだった。・珍しい楽器に触れ、普段体験したことのない経験ができた。

(コーディネーター 岡田泰子)

実施施設 東上総児童相談所

プログラム名 「体をつかっていっしょにあそぼう」

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風を
おこそう



実施場所：東上総児童相談所 2F 多目的室

実施日時： 2017年 7月 21日（金） 13:30 ~14:30

参加者数：総数 22人

内訳 子ども 14人（幼児 9人 小学生 3人 中学生 1人 高校生以上 1人）

大人 8人（施設職員 8人）

指導者：4人 大潤弘幸・岡本圭（劇団風の子） 綿貫のばら・岡田泰子（子ども劇場千葉県センター）

協力者：4人 コーディネーター2人 団体構成員2人

プログラム とんとんぱ・色鬼・とんとんぱ第2弾・かくれんぼ・なりきりかくれんぼ・
リーダーは誰だ？ 一筆お絵かき

当日の様子

幼児から高校生まで年齢幅が広く、小学生向けのプログラムで実施した。大潤さんが「今日は遊びます！」とあいさつ。最初は色鬼「みどり！」と言うと、全員がわあ一動き、緑のTシャツポスターの緑 靴下の緑と指をつける。赤 黄色 ピンク 水玉 シマシマと、部屋中を走り回り大騒ぎ。次は「とんとんぱ大会はじめ！」の号令で大潤さんとの対決。幼児もよくわかっているのか？いないのか？ 一人前に素晴らしいタイミングで参加していていっしょに「とんとんぱ」と始まった。だんだん乗ってきて数回繰り返し、その度にチャンピオンの誕生。次はかくれんぼでマットレスや人や黒板の後ろに隠れた。この時、幼児が大潤さんに「ここ！ここ！」と、仲間が隠れている場所を指さして教えたので、大潤さんも職員も大爆笑。なりきりかくれんぼは、想像力を働かせて何かになりきり、大潤さんに見つかるまでそれを自分なりにキープできるか試される、より高度なあそびだ。ねそべて「へび」、並んで立っている2人組「ザビエル」、部屋の隅にはりついて「さなぎ！」、女の子をおんぶして「二宮金次郎」「東京タワーとエッフェル塔」みんな即興で考えたなりきりかくれんぼは、すごい発想。リーダーはだれだ？では、大潤さんにバレないように作戦会議、「目線でわかるから、リーダーを見ないで真似をするんだ」作戦成功！。大潤さんが苦戦していた。一筆お絵書き 小さい子も一生懸命鉛筆を持って書いた。作品発表、大間さんに「見てみてー！」といわんばかりに集まってきた。

子どもの声

- ・トントんパゲームとかくれんぼ なりきりゲーム、色オニをしておもしろかった。なりきりゲームでぱっと思いついたのがザビエルで、なり切った。
- ・わたしが一ばんたのしかったことはトントんパのゲームとかくれんぼ。こんどまたやりたい。とてもたのしかった。
- ・一緒に楽しめたのでよかった。私も久々に色オニなどで遊んだのでちょっとなつかしい気持ちになった。ありがとうございました。

施設関係者からの声

- ・普段笑顔も会話もない子が、笑顔で遊び楽しそうだった。本当によく遊んでいた。こんな機会が必要ですね。
- ・日頃から上から目線で子どもにあたらないことを、全職員に言っている。ワーク中でも、どうしても子どもを管理しようという気持ちが一瞬働いてしまう。いけませんね。と言われたが、（職員は穏やかで禁止のようなそぶりはなかった。児相全体がファミリー的で温かい）
- ・あのお子さんには障がいがあり、いつもは職員が追いかけている。今日は全然ちがうすがたを見られて職員が驚いていた。よかった。

（コーディネーター 中村雪江）

実施施設 銚子児童相談所
プログラム名 「人形劇&ワークショップ」



実施場所：銚子児童相談所

実施日時： 2017年 7月 25日（火）10：30 ～ 11：40

参加者数：総数 20人

内訳 子ども 11人（幼児5人 小学生5人 中学生1人）

大人 9人（保育士3人 教師1人 職員5人）

指導者：4人 納富俊郎 納富祥子（人形劇団ののはな）（子ども劇場千葉県センター2人）

協力者：2人 コーディネーター 団体構成員2人

ワークショップの内容

小さな人形劇（ウレタン人形 カバのかっちゃん おじいちゃん スーパー人形劇）

作って動かすワークショップ（バタバタちょうちょ うまく飛べるかな？）

当日の様子

「人形劇の納富さーん」と呼ばれると、納富さんが大きな声であいさつ。その途端、声の大きさにびっくりした幼児が泣きて保育士にしがみついた。ウレタンロボットが登場。ウレタンの芋虫がくねくね！「かわいいー！」と声が出た。ウレタンのお花、犬、動くたびに手を叩いて大喜びし笑顔になった。段々子どもたちのテンションが上がり、小学生2人が納富さんの言葉にわざと反対のことを言ってギャング振りを発揮。スーパー人形劇は若い男の先生に大うけ、大笑い！いつの間にか幼児も泣き止み、スーパーのレジ袋が変身するたび「おー！」と声が出て笑顔に。一つ目小僧に変身すると「キャー!!」という声が、幼児の女の子からも出た。顔だけの人形のおじいちゃん、顔が代わるたびに「へー！」と中学生。幼児はこわーいとお爺さんを指さしていた。カバのかっちゃんと動物園の飼育係りの納富さんとの楽しい掛け合いでは、「手が無いのにどうやって動かしているのかな・・・」と男の子が気が付いた。ピンクのカバさんが、課長先生に似ていると、子どもたちは大喜び。バイバイと幼児もかっちゃんに手を振った。「バタバタちょうちょ」の作り方の説明を受け、おもいおもいの色紙で作りはじめた。さっきまで反対の事ばかり言っていた男の子が真剣に作っていた。黒の紙でカッコいいトンボを作った。センスがありきれいに仕上げた「もう一つ作ろう！」と言い出した。はさみも上手に使い、シールもきれいに貼りながら仕上げた。ちょうちょの触覚をきれいにまるめた子、色とりどりの色紙でカラフルに、またはシックな感じに仕上げる子、みんな丁寧に夢中になって作っていた。幼児もシール貼りは任せてとばかりにたくさん貼っている。出来上がるとみんなで動かしてみた。「ひらひらひら」完成したよ！ポーズでにっこり。

子どもの声

- ・人形劇をやってくれてありがとう。とてもたのしかった。またきてください。
- ・みんなたのしそうにみてておもしろそうだったよ。
- ・人形げきはとてもおもしろかった。最後みんなで作ったチョウや鳥、トンボなどであそんでみたらとても楽しくて、折り紙でお花をつかって、みつをすわせるマネをした。
- ・幼児たちや低学年の子たちも一番楽しそうだった。中学3年生になった私も、見ていてとても楽しかった。人形作りではとてもわかりやすく作りやすかった。チョウの形はきれいで、とてもかわいい。また機会があるなら『カチカチ山』などをやってほしい。

施設関係者からの声

- ・子どもたちも、退所時にトンボやチョウの作品を大事に持ち帰った。今後ともよろしく願いします。（コーディネーター 中村雪江）



実施場所：君津児童相談所 2F 会議室

実施日時： 2017年 7月 27日 (木) 13:30 ~ 14:30

参加者数：総数 19 人

内訳 子ども 16 人 (幼児 5人 小学生 8人 中学生 3人)

施設関係者 3人 (保育士 1人 職員 2人)

指導者：4人 大潤弘幸 関根薫 (劇団風の子) 岡田泰子 白鳥みゆき (子ども劇場千葉県センター)

協力者：4人 (コーディネーター 2人 スタッフ 2人)

ワークショップの内容

色オニ とんとんぱ かくれんぼ なりきりかくれんぼ だるまさんがころんだ 震源地は誰だ
協力しないお絵かき

当日の様子

「今日ではあそびます」の大潤さんのあいさつで、少し緊張気味だったがパッと笑いが出た。最初色オニ、「オニさんオニさん何色ですか?」「声が小さいよ!もう一度」「オニさんオニさん何色ですか?」「おお!すごいぞ!」大きな声が出た。緑 赤 ピンク 水玉 しましま…。わあっと言いながら団子状態になって示された色に突進。次は「かまえて!とんとんぱはじめ!」徐々にリラックスしていき、みんなが笑顔になってきた。かくれんぼでは、幼児が長テーブルの下に壁に向かってじーっと動かず座っていた。折り畳みの壁の間にも子どもが隠れていた。見つけられた幼児は振り向いて満面笑顔。大潤さんと一緒に「みつけた。みつけちゃった。みつけちゃった。」歌うようにピョンピョン跳ねながら自分も鬼になって楽しんでた。なりきりかくれんぼも、忍者、木、月、水たまり、ピョンピョンガエル、東京タワーとなりきった。「だるまさんがころんだ」では小学生が中心に大騒ぎで遊んだ。ルールをふまえた上で、子ども同士のかけひきあり、リーダー的な子が指示する場面あり、もめそうな気配あり、何度もやりたがり、大潤さんはその要求に応え、満足するまで繰り返した。「震源地は誰だ」では、戦略を立てることで仲間と協力することになった。リーダーになりたいと自らすすんで手をあげる子が何人もいた。協力しないお絵かきは、クールダウンのような効果があり、おもいおもいに体をのぼしたり寝っ転がったりしてクスクス笑いながら描いていた。

子どもの声

- ・だるまさんがたのしかった。またきてください。とんとんぱもたのしかった。すごくおもしろかった。またやりたい。
- ・なりきりかくれんぼが1番楽しかった。
- ・色鬼と、とんとんぱと、だるまさんがころんだと、リーダーぎめと協力しないお絵かきと なりきりかくれんぼをやって楽しかった。
- ・体をつかっていっしょにあそぼうができてうれしかった。

施設関係者からの声

- ・子どもたちの普段と違う様子が見られた。いつもならもめてけんかになるところでもそうならなかったのが驚いた。機会があれば、ぜひ来年もお願いしたい。自分も参加して楽しかった。
- ・ほとんどの子が(一緒に遊びができない子も含めれば全員が)とても楽しんで参加できていて本当に良かった。最初に固まってしまった子はもしかしたら最後までムリかな…と思いましたが、途中からイキイキと遊んでいた。びっくりです。
- ・中学生や高学年、途中参加の子もそれぞれに楽しめていた。子どもたちにもっとプラスの声かけをしていかなければいけないな、と思った。
- ・子どもたちは部屋に戻ってからも楽しかったと言っていた。

(コーディネーター 中村雪江)



実施場所：千葉市児童相談所 2F スポーツひろば

実施日時： 2017年 7月 14日 (金) 13:30 ~ 14:40

参加者数：総数 47人

内訳 子ども 25人(幼児 8人 小学生 4人 中学生以上 13人)

大人 22人(施設関係者 12人 県内の児相職員研修のため 10人程が前半を見学。)

スタッフ数：指導者 3人 BBモフラン ダウディ 典子(ビタシカオフィス)

コーディネーター3人

プログラムの内容

アフリカの言葉、日本の言葉。みんなで歌おう！・「どんぐりころころ」「おもちゃのチャチャチャ」「ゴキブリのうた」 みんなで踊ろう！ アフリカの太鼓を叩こう

当日の様子

「どんぐりころころ」「おもちゃのチャチャチャ」は小さな子でも知っているもので、トーンキングドラムでリズムをモフランさんがたたき、低い声で「あそびましょー♪」と始まった。モフランさんたちが熱演し、どんどんスピードアップしても、子どもたちもそのスピードにあわせ、かけ声と手拍子で最後までついていった。モフランさんがライオンキングを歌い出すと中学生以上の女の子たちは顔を見合わせて驚いていた。男の子が、太鼓をたたくとき嬉々としてパッと動いて太鼓の前に座った。子どもたちは太鼓の体験をした後、モフランさんやダウディさんとハイタッチして喜んでた。お兄さんやお姉さんたちにまぎって幼児も一生懸命に太鼓をたたき、とびはねて踊っていた。異年齢の輪ができていた。ダンスはすごく盛り上がった。先生も子どもと一緒に飛び跳ねて、笑って寝ころんだ子がいた。「アンコール！」の声が男の子たちからわきおこった。アンコールのソーラン節も知っている子が多くて中学生以上の男の子たちは上手に踊っていた。アフリカンなリズムのソーランは大盛り上がりで、興奮気味の子どもたちは、笑顔で退室した。

子どもの声

- ・はくりよくがやばかった。ライオンキング見たい。ハーモニーがきれい。リズムに合わせて踊ったのが久しぶりで楽しかった。ジャンベもギターも本格的にやりたいと思った。
- ・太鼓のやり方など本当に貴重だなと思いました。とても happy でした。本当にありがとうございました。Thank you for play music.
- ・すごくリズム感のいい曲とダンスが良かった。タイコをたたいてもらっているだけで体がかかってリズムにのっておどりたくなった。
- ・アフリカンリズム、パーカッションなど普段の生活ではあまり体験できないので貴重な時間になった。

施設関係者の声・様子

- ・「自分が一番楽しんだかもしれない。鳥肌が立った。見たたことのない太鼓を叩けて満足。
- ・ジャンベの音がお腹に響いて、心も体もウキウキしっぱなし。自分達が叩いて出す音と、モフランさんが叩く音では全然違って、アフリカの大自然の中にいるようだった。踊ったり、ジャンベを叩いたり、とても×10000 楽しい時間が過ごせた。
- ・家庭や学校でも経験できることではないので、子どもにとっても私たち大人にとっても貴重な体験になった。

(コーディネーター 笠原直子)



実施場所：千葉県乳児院

実施日時：2017年 7月 28日（木）10:00～11:00

参加者数：総数 16人

内訳 子ども 8人(乳・幼児8人)

施設関係者 8人(保育士4人 施設関係者2人 ボランティア2人)

スタッフ数：パフォーマー2人(人形劇団のはな 納富俊郎・納富祥子)

コーディネーター2人 スタッフ 2人

内容 ウレタンロボット ぴよんちゃんとケロちゃん スーパー人形劇 コップンコシアター
カバのかっちゃん

当日の様子

開演前20分間、スタッフが子どもたちと一緒に遊び、仲良くなるためのウォーミングアップ。ウレタン人形が登場。ウレタンロボットが体操を始める。「いちにさん首をまわして」あおむし、お花、犬が次々登場してウレタンロボットとお友達になりジャンプしたり、ダンスをする。ウレタン人形は納富さんたちによって表情まで想像できるほどリアルな人形劇だった。子どもたちはジーッと観ていた。ぴよんちゃんケロちゃんは、「できるかな？」と子どもたちに声をかけると、子どもが手を挙げた。おお！すごいぞ！子どもはスタッフと、先生、納富さんといっしょに、「カエルの歌」に合わせて演じた。コップからケロちゃんとぴよんちゃんが顔を出すと、子どもたちはよろこんでリズムに合わせるように手をたたいた。スーパ人形劇では、紙のカエル君がハエを食べようとして何度も失敗して、やっと捕まえた。カミレオンが登場し、長い舌を使って一瞬に虫を食べた。子どもたちは「あ〜」と声を出し、指を指して、わあっと手をたたいた。コップンコシアターでは、「こぶた♪ たぬき♪ きつね♪ ねこ♪」と、紙コップをあげたり下げたり回したりすると、こぶたやたぬき、きつねやねこの絵が出てくる。かわいい！カバのかっちゃんが出てくると、「は〜い」と手をあげたり、手を叩いている。終演後、ストロー人形をもらってうれしそうだった。納富さんたちとタッチして「さようなら」をした。

施設関係者の声

- ・どの子も良くみていた。1歳を過ぎたばかりの子どもの集中力には驚いた。
- ・子どもたちに良い刺激となり、情緒発達につながったと思う。
- ・幼児の楽しみ方を学ばせてもらった。 ・大人も本当に楽しかった。
- ・人形の動きを子どもたちが良くみていて、中には驚いて声をあげたり、手をたたいたり、生き生きした様子がみられてよかった。
- ・くぎづけだった。身動きひとつせず観ている子、話を理解し、拍手したり、手を振ったりしている子、どの子も本当に楽しそうにしていました。
- ・初めての子と2回目の子では反応が違っていた。2回目の子は一番前に座り、よ〜く見ながら一緒に体や手の動きが盛んで、笑顔いっぱい。初めての子は、(1歳半〜2歳)保育士にぴったりくっついて、何が起きるのか固い表情。しかしおもしろくて楽しいことがわかると笑顔になり、くいいるように見ていた。
- ・特別な赤ちゃん言葉のようなものを使わずとも、引き込まれていく様子を見ることができた。ウレタンロボットの細やかな動き、本当に生きていようだった。

(コーディネーター 鈴木 中村)

コーディネーター打合せ会議

【1回目】

開催日時・場所：2017年5月25日(火) 10:30～13:00 プロミス千葉会議室

参加者：18人

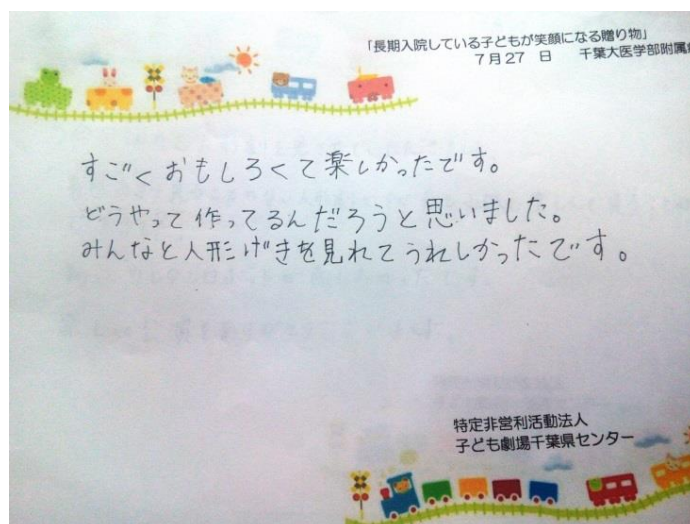
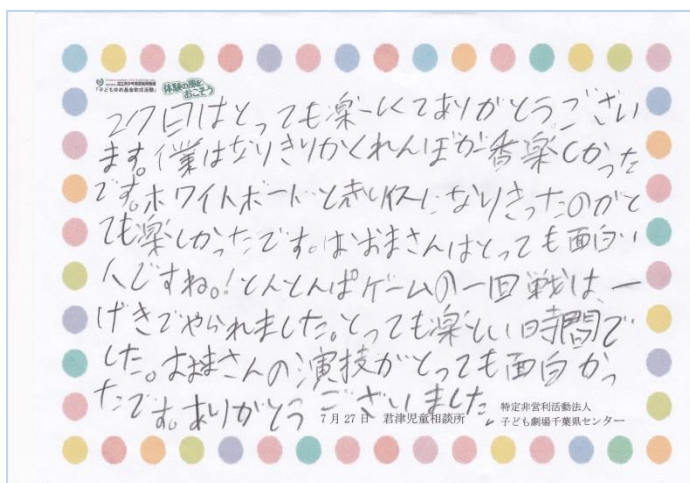
内容：事業実施に当たり、目的やコーディネーターの役割、開始から完了までの資料の作成の説明し、理解を得た。ガイドラインと照らし合わせて、昨年の実施から課題を出し合い、ワークショップの研究交流をしました。病院で生活する子どもたちが、外の世界に希望を持てるように日常とは違う人との出会いを大切にしたいワクワクした時間をつくるために、会場の雰囲気づくりや材料に工夫をし、子どもたちが達成感や満足感等自分らしさを出せるワークショップにすることを確認しました。

【2回目】

開催日時・場所：2018年1月24日() 10:30～12:30 千葉市民活動支援センター会議室

参加者：人

内容：全ての病院や児童施設での実施が終了し、担当コーディネーターから各事業を報告され、ガイドラインと照らし合わせて、事業のまとめと成果の確認をしました。また、報告書、啓発パンフレット、新ガイドラインについて意見を出し合いました。次年度は事業の継続と、福祉児童施設で生活する子どもたちにも笑顔の贈り物を届けたいと、期待が膨らみました。



病気と向き合う子どもが笑顔になる贈り物事業 2016 報告書

発行日 : 2018年3月1日

発行者 : 特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

発行所 : 特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

〒260-0031

千葉市中央区新千葉2-17-6 サンコート新千葉102号

TEL : 043-301-7262 FAX : 043-301-7263

メールアドレス : kidchiba@lily.ocn.ne.jp

編集委員 : 宇野京子 岡田泰子 大森智恵子 笠原直子 桑原信子
椎名好子 滝口淳子 中村雪江 綿貫のばら 鈴木佳子

この報告書の内容を無断で引用・転載することはかたくお断りいたします

